研究・調査報告書

分類番号		報告書番号	担当
C-141		15-053	滋賀医科大学社会医学講座公衆衛生学部門

題名（原題／訳）

Light to moderate intake of alcohol, drinking patterns, and risk of cancer: results from two prospective US cohort studies.

軽中等度のアルコール摂取と摂取パターンとがんの関連：US における 2 つの前向きコホート研究

執筆者

Cao Y, Willett WC, Rimm EB, Stampfer MJ, Giovannucci EL.

掲載誌

BMJ. 2015 Aug 18;351:h4238. doi: 10.1136/bmj.h4238

キーワード	PMID
アルコール、がん、コホート研究、US	26286216

要　旨

目的：

過度の飲酒習慣が発がんリスクを増すことは知られているが、軽度・中程度の飲酒での関連は明確でない。軽中等度のアルコール摂取と非喫煙に焦点を絞り、男女別にアルコール摂取レベルと全がんの関連を評価することを目的とした。

方法：

US における 2 つの前向きコホート研究（Nurses' Health Study および Health Professionals Follow-up Study）に参加男女を対象として、飲酒レベルと癌リスクの関連を相対リスクにより評価した。

結果：

研究対象者は女性 88,084 名、男性 47,881 名であった。3,144,853 人年のうち、女性で 19,269 例、男性で 7,571 例のがん罹患が確認された。女性では、非飲酒者に比べて 0.1-4.9g/日、5－14.9g/日のアルコール摂取者は、全がんの相対リスクは 1.02（95%信頼区間 0.98、1.06) and 1.04 (1.00、1.09)、傾向性検定は P=0.12 であった。男性では、非飲酒者に対して 0.1-4.9、 5-14.9、15-29.9 g/日のアルコール摂取者の全がん相対リスクは 1.03 (0.96、1.11)、1.05 (0.97、1.12)、1.06 (0.98、1.15)、傾向性検定は P=0.31 であり、これらの傾向は喫煙状況を考慮しても同様であった。また、多量アルコール摂取は、喫煙状況に関係なく、全がんのリスクを有意に上げることも確認された。飲酒関連がんに絞った解析においては、男性では軽中等度のアルコール摂取は飲酒なしに比べて相対リスクを上げることは示されなかった。一方、女性においては、5－14.9g/日の中等度のアルコール摂取でも有意に飲酒関連がん（乳がんを含む）の相対リスクを上げることが示された（相対リスク 1.13(1.06、1.20))。

結論：

男性の非喫煙者では、軽中等度のアルコール摂取とがん罹患との関連は示されなかったが、女性の非喫煙者においては、中等度のアルコール摂取であってもがんリスクを上げることが示唆された。中等度のアルコール摂取が、がん罹患に限定的ではあるが関連があることが示唆された。